



“読み困難”の背景要因と支援 ②

音読に困難がある子の支援では、まず、その子のつまずきの元を特定することが重要です。学級での授業や通級指導教室・かがやきルームでの個別・小集団指導の場面での観察や、文字列の見え方についての子どもからの聞き取り、教科担任など接点のある教員からの情報などから困難の要因を探ります。



視力とは別の“見えにくさ”があり、眼球の動きや、図と地の弁別、形の識別などに問題がある（前号に記した“浅い処理”に困難さがある）場合であれば、**ビジョントレーニング**を1日5分程度行うことが改善に役立ちます。学校で実施する場合は、個別・小集団の指導場面はもちろん、クラス全員で授業開始時のウォーミングアップとして1～2分行う方法もあります。ビジョントレーニングについては書籍も多く、様々なワークが紹介されています。

ビジョントレーニングは、見る力を高めることで、読む力を高める方法ですが、もう一つの支援の方向として、困難さによる不利益を軽減する方法(= **合理的配慮**)があります。例えば読むべき行だけが見えるリーディングトラッカーの活用があります。自作もできますが、通販で数百円で購入でき、数色のカラー版がセットになっている商品が多いので、見やすい色を選べば、眩しさや目のチクチク感を感じている子の苦痛が和らぎ、読みやすくなります。全体がカラーシートのタイプもあります。



読む箇所に指を当てさせることによって視点が定まる場合もあります。文字が小さくて見にくい、混乱するのであれば、拡大コピーを用いる方法もあります。



こうして考えると、全員が起立し、両手で教科書を持って、声を揃えて読ませる指導にこだわらない柔軟な指導が教師に求められることが分かります。**個別最適な指導**とは、正にこのようなことを言うのです。

これは宿題の出し方でも同じことが言えます。例えば、「スラスラ読み3回」という宿題の場合、多くの子は何分もかからずに終わることができても、読み困難のある子と厳格な親との組合せでは悲劇に発展しかねず、結果、勉強嫌いを助長してしまうことになります。「全員1回は読む」「10分間で読めるだけ読む」「チャレンジ課題としてスラスラ読み3回」など、複数の選択肢を用意して、様々な子に対応できるように工夫するひと手間が大切なのです。

…本通信の第47号でも、宿題をめぐる悲劇について取り上げています。

また、単語（文字の塊）が見分けられず、1文字ずつ辿り読みをしている子は、周囲の子の読みのスピードに到底ついていけません。文字を追うのに精一杯で、文の意味が頭に入らないのに読んでいるようにして凌ぐのは辛いことでしょう。単語の区切りを分かりやすくするために、その意味を確かめながら、スラッシュを書き込むなどの配慮が求められます。

…ビジョントレーニングのワークブックには、単語を見分ける課題も掲載されています。

様々な配慮・工夫により、少しでもスムーズな音読ができるようになれば、それに越したことはありませんが、本来、読みの指導においてそれ以上に求められるのは**読解力**の向上です。

次号では、読解（深い認知処理）の指導に話を進めます。

担当：学校生活適応支援アドバイザー 飯山・大瀧
TEL 639-4392 / 支援要請は 639-4381 諸伏・石川